

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年3月30日現在

機関番号：21601
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：21520823
研究課題名（和文） 高齢化コミュニティの暮らしの変化と保健戦略 —八丈島と奥会津山村の比較研究—
研究課題名（英文） Change of Life Aging Community and Strategy on Public Health —Comparative Study between the Island of HACHIJO and Community in Oku-AIZU Mountainous Regions—
研究代表者 立柳 聡（TACHIYANAGI SATOSHI） 福島県立医科大学・看護学部・講師 研究者番号：40315669

研究成果の概要（和文）： 島嶼や山間の過疎地に所在する高齢化コミュニティに暮らす人々は、健康を維持、回復する上で、一定の不安や不便を認識しつつ、今なお住み慣れた土地と民俗に象徴される在地の文化に対する愛着、そして、長らく培われてきた人間関係を大切に生きようとする心意が強く、特に保健・医療・福祉の施策を有効に展開するには、在地の文化や人間関係の仕組みとの整合性を積極的に考慮して構想することが重要とみられることが判明した。

研究成果の概要（英文）： Our conclusion is the followings. Though people living in aging community located in isolated island and mountainous region is in trembling uncertainly to keep their health, at the same time, attached to their native land, tradition and folklore peculiar. Accordingly their will to be living in there based in human relationship traditionally is very strong. Then especially in the field of health, medical care, social welfare, it is the most important point to make policy in these aging community that we should think positively to adjust on the traditional culture and social structure in land concerned.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：高齢者施策、奥会津地方、保健・医療・福祉、八丈島、金山町、昭和村、
高齢化コミュニティ、島嶼コミュニティ

1. 研究開始当初の背景
 一般には、限界集落と呼ばれることが多い | 大字や字を対象とした私どものこれまでの
 民俗調査によれば、少子高齢化と自治の崩壊、

社会保障の危機を前に、在地の環境や文化、社会の特色を活かしながら、巧みにそれらを乗り越える現実的な方策を生みだし、コミュニティ（共同体）として地域社会を維持しようとする意欲的な営みにも遭遇する。私どもは、これを「高齢化コミュニティ」と呼び、概念化すると共に、特に、当該地に暮らす高齢者の保健・医療・福祉的なニーズをどのように充足することが望ましいか、深い関心を寄せてきていた。

2. 研究の目的

脱施設＝地域・在宅ケア、ノーマライゼーションを方向性とする福祉の動向やスローライフに対する評価の影響も受けながら、住み慣れた土地と民俗に象徴される在地の文化に対する愛着、そして、長らく培われてきた人間関係を大切に生きようとする高齢化コミュニティの人々の心意と、特に保健や医療の面で、現実に対応する具体的な戦略が、どのように折り合って展開しているか？高齢化コミュニティ一般に当てはまる原理性は確認されるのか？本研究は、深層で民俗とその伝承が有する現代的な意義に強い関心を寄せつつ、異なる文化・社会的背景を有する当該大字の比較により、それらに迫ろうとするものである。

3. 研究の方法

私どもの研究、並びに、社会貢献の方法は以下である。

(1) 特に、家族や親族、地域社会の社会構造や互助慣行、信仰、病気観と健康観、人口移動に注目しながら、民俗調査により、当該調査地の伝統的な文化や社会構造上の特色を明らかにする。

(2) 特に、高齢者の介護や子育て支援施策に注目しながら、社会福祉や社会政策学的な知見と方法に抛りながら、当該調査地が属する自治体における現行の地域保健、社会保障の政策・施策の特色を明らかにする。

(3) ①の知見と②の知見をつきあわせ、当該調査地の伝統的な文化や社会構造上の特色と理念的、原理的に齟齬するとみられる現行の政策・施策を明らかにする。

(4) ③で明らかになった矛盾を解消するために、当該調査地の伝統的な文化や社会構造上の特色を活かした新たな政策や施策を、当該調査地が属する自治体の担当者と共に構想し、当該自治体の住民と首長、議会に提案する。

4. 研究成果

2009年度（一部はそれ以前）から始まった上掲の方法に基づく取り組みにより、これまでに以下の成果を得た。

(1) 八丈島中之郷地区を中心とする民俗

調査、並びに、八丈町における高齢者施策に関する調査、公衆衛生に関する史料の調査を概ね完了した。また、八丈島全域での古文書の整理、記録化を鋭意進めてきた。

また、八丈町におけるこれまでと現行の政策・施策の実態を把握するためのヒアリングや実見、資料収集の調査を同時に進めてきた。それを踏まえ、当該調査地の伝統的な文化や社会構造上の特色を活かした新たな政策や施策を、当該調査地が属する自治体の担当者と共に構想するため、八丈町の一般住民が70名も参加する規模のフォーラムを八丈町において開催した。マスコミも取り上げ、注目が集まっている。首長と議会への政策・施策提案に向け、概ね土台づくりを完了させた。

(2) 福島県昭和村両原地区、金山町田沢地区の全戸を対象とする世帯調査、族制慣行、互助慣行、自治制度、生業、年中行事に関する民俗調査、並びに、昭和村と金山町における高齢者施策に関する調査を概ね完了した。この成果を踏まえ、当該調査地の伝統的な文化や社会構造上の特色を活かした新たな政策や施策を、当該調査地が属する自治体の担当者と共に構想するため、一般住民も参加する相当規模のフォーラムを昭和村と金山町において開催する企画をまとめ、実務的な準備を進めるところまで到達した。

(3) 福島県金山町山入地区における農業用水路補修の共同作業、特にムラの自治活動における高齢者の関わりを中心に、神社祭典と演芸大会、村歌舞伎と芸能大会の運営に関わる調査を概ね完了した。

(4) 当該分野に関心の深い大学院生を複数補助スタッフとして迎え入れ、研究指導に当たり、後継研究者の養成も推進した。

(5) 本調査・研究期間中の2011年8月に、奥会津地方と新潟県を襲った大規模な集中豪雨によって、当該調査地も相応の被害を受けた。これに関わって、偶発的ながら、災害に関わる伝承や、防災に関わる互助協同の慣行についても調査が展開し、高齢者の保健・医療・福祉的なニーズを充足する政策・施策の構想に、新たな視点を加えることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

①立柳聡、南部伊豆諸島村落構造類型再考・その1「親族」—八丈島中之郷を中心に—、白山社会学研究、第19号、pp.1-19、2012、査読有

②立柳聡、奥会津一山間農村における親族の組織化に関する一考察、島嶼コミュニティ研究、創刊号、pp.1-17、2012、査読有

③松本誠一、高齢者の多い地域社会における

共同一八丈島と奥会津山村の比較を通じて
一、島嶼コミュニティ研究、創刊号、pp.18-40、
2012、査読有

④土屋久、イシバサマ信仰と風一八丈島にお
けるカミ・ヒト・自然一、島嶼コミュニティ
研究、創刊号、pp.65-75、2012、査読有

⑤立柳聡、奥会津一山間農村における位牌分
けに関する考察、東洋大学大学院紀要社会学
研究科・福祉社会デザイン研究科、第47集、
pp.45-56、2011、査読有

⑥土屋久・堀口久五郎、八丈島・青ヶ島にお
けるカナヤマサマ信仰、文教大学人間科学部
人間科学研究、第32号、217-227、2011、
査読有

⑦土屋久、八丈島菊池家祭祈願文目録、社団
法人倫理研究所 倫理研究所紀要、第20巻、
pp.286-299、2011、査読有

〔学会発表〕(計20件)

①岡本裕樹、八丈島における伝統的治療法の
現在一「症状別治療方法」を中心として一、
第70回日本公衆衛生学会総会、2011年10
月20日、秋田アトリオン

②立柳聡、奥会津一山間農村の村落構造と位
牌分け、日本民俗学会第63回年回、2011年
10月2日、滋賀県立大学

③對馬秀子、記録からみた小笠原の開発一甘
藷栽培がもたらしたもの一、日本島嶼学会、
2011年9月10日、徳之島生涯学習センター

④土屋久、ミコの唱えるダイモクについて一
八丈島・青ヶ島におけるカミとホトケー、日
本島嶼学会、2011年9月10日、徳之島生涯
学習センター

⑤對馬秀子、八丈島を中心にみた島の人口流
出とその社会的条件、島嶼コミュニティ学会
設立プレワークショップ、2010年6月26日、
東洋大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○ 出願状況 (計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

[http://www.fmu.ac.jp/kenkyu/Profiles/6/
0000515/profile.html](http://www.fmu.ac.jp/kenkyu/Profiles/6/0000515/profile.html)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

立柳 聡 (TACHIYANAGI SATOSHI)

福島県立医科大学・看護学部・講師

研究者番号：40315669

(2) 研究分担者

松本 誠一 (MATSUMOTO SEIICHI)

東洋大学・社会学部・教授

研究者番号：30181770

(3) 連携研究者

土屋 久 (TSUCHIYA HISASHI)

順天堂大学・保健看護学部・非常勤講師

研究者番号：80596338

對馬 秀子 (TSUSHIMA HIDEKO)

埼玉医科大学短期大学・専攻科・非常勤講
師

松山 義夫 (MATSUYAMA YOSHIO)

十文字学園女子大学・人間生活学部・非常
勤講師

岡本 裕樹 (OKAMOTO HIROKI)

順天堂大学・大学院・院生

大矢 枝里子 (OOYA ERIKO)

東洋大学・大学院・院生

小田 和也 (ODA KAZUYA)

明治大学・大学院・院生

